

**確定版**

**平成29年度  
王滝村総合戦略評価報告書**

**王滝村総合戦略会議  
平成29年7月25日**

# 目 次

I 「玉滝村総合戦略」の評価について	1
1 趣旨	1
2 玉滝村総合戦略の進捗状況の概要	1
(1) 基本目標の進捗状況	1
(2) 重要業績評価指標（K P I）の進捗状況	2
II 各指標の進捗状況	3
1 【くらし】	
(1) 美しい山林と水源地としての清流の景観維持	3
(2) 火山災害をはじめ安全安心な災害対策	6
(3) 安全なくらし	8
2 【移住・交流】	
(1) 幸せを感じる村づくりによる移住促進	13
(2) 下流域地域など交流の一層の充実	15
3 【産業】	
(1) 観光資源の活用による地域振興	17
(2) 自然エネルギーの活用による雇用創出	21
(3) 地域に根ざした産業の振興	23
4 【子育て・福祉】	
(1) 子育てにやさしい村づくり	26
(2) 教育環境の充実	28
(3) 高齢者が安心して過ごせる村	30
(4) 生きがいをもって暮らせる村	33
5 玉滝村総合戦略に含まない施策（長期振興計画にのみ記載）	35

## I 「王滝村総合戦略」の評価について

### 1 趣旨

「王滝村総合戦略」を着実に推進するため、その進捗について評価し、今後の施策や事業の改善に活用します。

基本目標（数値目標）及び重要業績評価指標（KPI）の進捗状況を客観的に把握し、外部の視点も確保して評価を行い、村民に公表します。

### 2 王滝村総合戦略の進捗状況の概要

王滝村総合戦略の2年目である平成28年度の施策に係る基本目標（数値目標）及び重要業績評価指標（KPI）の進捗状況の概要は以下のとおりです。

#### (1) 基本目標の進捗状況

5つの基本目標に掲げた6つの数値目標について、計画最終年度である平成31年度の目標達成に向けた進捗状況を「順調」、「概ね順調」、「努力を要する」の3段階で評価しました。

**その結果、6指標全てが「努力を要する」となりました。**

基本目標	指標及び目標値	実績値	
		27年度 (1年目)	28年度 (2年目)
1 出生数	平成27年～平成31年出生数 27人 (H22～H26年出生数13人)	3人	3人
		努力を要する	努力を要する
2 社会移動増減	平成27年～平成31年社会移動数 △40人 (H22～H26年社会移動数△50人)	△7人	△25人
		概ね順調	努力を要する
3 観光地延利用者数・観光消費額	観光地延利用者数 平成31年 320千人 (平成26年 273千人)  観光消費額 平成31年 13.8億円 (平成26年 11.7億円)	116千人	171千人
		努力を要する	努力を要する
4 公共交通機関利用者数	公共交通利用者数 平成31年度 2,000人 (平成26年度 1,120人)	1,022人	1,199人
		努力を要する	努力を要する
5 健康な人の割合	高齢者に占める要介護者の割合 平成31年 減少 (平成26年 9.3%)	9.8%	13.5%
		努力を要する	努力を要する

(2) 重要業績評価指標（K P I）の進捗状況

40の重要業績評価指標（K P I）について、基本目標と同様に3段階で評価しました。

その結果、全指標の60%に当たる24の指標で「順調」または「概ね順調」、32.5%にあたる13の指標で「努力を要する」となりました。

基本方針	順調	概ね順調	努力を要する	実績値なし	計
1 暮らし (公共交通機関利用者数)	10 (58.9)	0 (0.0)	7 (41.1)	0 (0.0)	17 (100.0)
2 移住・交流 (社会移動増減)	3 (60.0)	0 (0.0)	2 (40.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
3 産業 (観光地延利用者数・観光消費額)	1 (11.1)	2 (22.2)	4 (44.4)	2 (22.2)	9 (100.0)
4 子育て・福祉 (出生数、健康な人の割合)	4 (44.4)	4 (44.4)	0 (0.0)	1 (11.1)	9 (100.0)
計 (%)	18 (45.0)	6 (15.0)	13 (32.5)	3 (7.5)	40 (100.0)

※端数処理のため合計が100.0にならない場合もあります。

【進捗区分】 ※5年間の計画期間のうち、2年間で終了したことを考慮

- 順調 : 40%以上の進捗
- 概ね順調 : 30%以上 40%未満の進捗
- 努力を要する : 30%未満の進捗
- 実績値なし : 実績値がない又は把握できない

【参考】

平成27年度（1年目）の重要業績評価指標（K P I）の進捗状況

基本方針	順調	概ね順調	努力を要する	実績値なし	計
1 暮らし (公共交通機関利用者数)	12 (70.6)	0 (0.0)	5 (29.4)	0 (0.0)	17 (100.0)
2 移住・交流 (社会移動増減)	4 (80.0)	0 (0.0)	1 (20.0)	0 (0.0)	5 (100.0)
3 産業 (観光地延利用者数・観光消費額)	3 (33.3)	1 (11.1)	0 (0.0)	2 (22.2)	9 (100.0)
4 子育て・福祉 (出生数、健康な人の割合)	6 (66.7)	1 (11.1)	0 (0.0)	2 (22.2)	9 (100.0)
計 (%)	25 (62.5)	2 (5.0)	9 (22.5)	4 (10.0)	40 (100.0)

- 順調 : 20%以上の進捗
- 概ね順調 : 15%以上 20%未満の進捗
- 努力を要する : 15%未満の進捗
- 実績値なし : 実績値がない又は把握できない

### Ⅲ 各指標の進捗状況

#### 1 【くらし】安全・安心な暮らしを守り、王滝村の特性を生かした村づくりを進めます

##### (1) 美しい山林と水源地としての清流の景観維持

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年 度)	H27年度	H28年度	H29年 度	H30年 度	目標 (H31年度)
<b>ごみ排出量の抑制</b>  <b>【備考】</b> 木曽クリーンセンターにおける王滝村分の粗大ごみ、不燃ごみ、可燃ごみの年間処理量 [長期振興計画での平成32年度目標値を踏まえた数値を目標]	目標値	t						247
	実績値		258	248	237			
	進捗区分			順調	順調			
	主な施策	・ 広報誌等を活用した啓発活動						
進捗状況の分析及び今後の取組	村民にごみの排出を抑制する意識が浸透してきており、ごみの排出量は計画以上に減少し順調に進捗しています。 引き続き、村民の意識醸成のための啓発に努めます。							
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年 度)	H27年度	H28年度	H29年 度	H30年 度	目標 (H31年度)
<b>リサイクルの推進</b>  <b>【備考】</b> 木曽クリーンセンターにおける王滝村分の資源ごみ回収量及び学校における資源ごみ回収量 [長期振興計画での平成32年度目標値を踏まえた数値を目標]	目標値	t						63
	実績値		58	66	62			
	進捗区分			順調	努力を要する			
	主な施策	・ 広報誌等を活用した啓発活動						
進捗状況の分析及び今後の取組	村民に資源ごみをリサイクルする意識が浸透してきており、資源ごみの回収量は目標以上となり順調に進捗しています。 引き続き、一過性のものにならないよう啓発に努めます。							
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年 度)	H27年度	H28年度	H29年 度	H30年 度	目標 (H31年度)
<b>企業団体との連携</b>  <b>【備考】</b> 年度末における水源の森パートナー協定締結件数 [水源の森パートナー協定を結ぶ団体を更に1団体増やすことを目標]	目標値	件						6
	実績値		5	5	5			
	進捗区分			順調	順調			
	主な施策	・ 水源の森パートナー事業						
進捗状況の分析及び今後の取組	パートナー協定の締結件数は維持しており順調に推移しています。 下流域市町とのふれあい交流などあらゆる機会を捉えてパートナーになっていただける団体の募集に努めます。							

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年 度)	H27年度	H28年度	H29年 度	H30年 度	目標 (H31年度)
<b>上下水道の整備</b>  <b>【備考】</b> 年度末時点における上水道普及率 [普及率を維持することが目標]	目標値	%						現状維持
	実績値		99.8	99.8	99.8			
	進捗区分			順調	順調			
	主な施策	・水道施設の維持管理						
	進捗状況の分析及び今後の取組	普及率は現状維持されており順調に推移しています。引き続き、施設の維持管理に万全を期し、安全な水の供給に努めていきます。						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年)	H27年度	H28年度	H29年 度	H30年 度	目標 (H31年度)
<b>行政関係電気使用量</b>  <b>【備考】</b> 年間（年度）の村有施設電気使用量（村負担分） [長期振興計画の平成32年度目標値を踏まえた数値を目標]	目標値	KWh						757,200
	実績値		826,000	838,425	860,839			
	進捗区分			努力を要する	努力を要する			
	主な施策	・役場庁舎等における不必要な照明の消灯の実践						
	進捗状況の分析及び今後の取組	公共施設における必要最小限の照明の使用に加え、LED化に取り組んでいきます。						

## 王滝村総合戦略 施策評価一覧表

### (1)美しい山林と水源地としての清流の景観維持

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取り組み	担当課
1	3Rの推進、周知、啓発	広報誌等を活用した啓発活動	C	広報誌を活用した定期的な啓発を行っている。	福祉健康課
2	村民参加の村内美化清掃及び御岳清掃登山の実施	年2回の村内美化清掃の実施	B	28年度のごみ回収量は240kgであった。今後も継続して行っていく。(御嶽山清掃登山は入山規制により実施不可)	福祉健康課
3	不法投棄防止パトロールの実施	不法投棄防止パトロール	A	不法投棄は見受けられませんでした。	福祉健康課
4	王滝村公園事業	環境美化等に関する啓発活動	C	住民全体が景観美化の意識を高める取組を検討し、自然環境を活かした村づくりを目指す。	福祉健康課
5	簡易水道の安定供給を行なうための適正な有資格事業者による施設管理、保守点検	松越減圧弁修繕。大又配水池壁面補修	C	予算の範囲内で各種修繕工事を実施。また専門業者による水質検査委託及び保守点検委託を実施する。	経済産業課
6	電気使用量及び化石燃料使用量の削減	チラシの配布による啓発 薪ストーブの継続的利用	B	引き続き温室効果ガス排出抑制に向けて、各家庭での取組の啓発に努め、公共施設においては照明のLED化を進める。	福祉健康課 総務課
7	環境にやさしい自然エネルギーの検討及び導入	木質バイオマス発電に関する調査	B	これまでの導入調査の状況を踏まえながら、自然エネルギー導入のあり方について検討を進める。	福祉健康課 村おこし推進課
8	用紙類使用量の削減	ペーパーレス会議システム導入(新)	C	ペーパーレス会議システム導入(新)	総務課
9	グリーン購入の推進	コピー用紙古紙100%使用	A	コピー用紙古紙100%使用を継続	総務課
10	公共施設の整備・維持管理や公共事業・イベント等での環境への配慮	役場庁舎の電気をLEDに交換	B	今後も環境に配慮した整備・物品の購入に取り組む。	福祉健康課 総務課

※担当課が2段書きとなっている項目については、上段の課がとりまとめ。

	(順調) A	2	20.0%	
	(概ね順調) B	4	40.0%	
	(努力を要する) C	4	40.0%	
	(実績なし) D	0	0.0%	
	合計	10	施策	

(2) 火山災害をはじめ安全安心な災害対策

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年 度)	H27年度	H28年度	H29年 度	H30年 度	目標 (H31年度)
<b>防災・観光アプリケー ションの利用者数</b>  <b>【備考】</b> 年度末におけるスマートフォン用防災・観光アプリケーションの登録者数 [年間 1,000 人程度の登録者を 目標]	目標値	人						5,000
	実績値		—	450	600			
	進捗区分			努力を要する	努力を要する			
	主な施策	・防災・観光アプリケーションの構築						
進捗状況の分析 及び今後の取組	夏は登山客がほぼ無い状況であるため、冬におんたけ 2240 と連携し「アプリを登録したらソフトドリンク無料」といったキャンペーンを実施したが、登録者数が伸びなかった。今後は、木曾おんたけ観光局（DMO）を通じて、登山客が多い木曾町などと広域的な運用や観光コンテンツの開発を検討するなど、登録者数の増加を図るような働きかけを行いたい。							
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年 度)	H27年度	H28年度	H29年 度	H30年 度	目標 (H31年度)
<b>消防団人数 (機能別団員を含む)</b>  <b>【備考】</b> 年度末における消防団員（機能別団員を含む）の数 [基準値の 1 割減程度を目標]	目標値	人						70
	実績値		78	78	77			
	進捗区分			順調	順調			
	主な施策	・消防団員、機能別消防団員への勧誘活動						
進捗状況の分析 及び今後の取組	消防団員数は、前年度と同数と順調に推移しています。 今後も消防団員の減少が見込まれるため、引き続き新入団員、機能別消防団員の勧誘に努めるとともに、定年の引上げについても検討します。							
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年 度)	H27年度	H28年度	H29年 度	H30年 度	目標 (H31年度)
<b>自主防災組織の育成</b>  <b>【備考】</b> 年度末における自主防災組織の組織数 [村内の約半数の地区で自主防災組織を組織することを目標]	目標値	団体						5
	実績値		2	3	3			
	進捗区分			順調	努力を要する			
	主な施策	・自主防災組織の定期訓練への消防団員の派遣、指導						
進捗状況の分析 及び今後の取組	自主防災組織は 3 団体と平成 28 年度の増加はありませんでした。行政連絡員会議等の機会を利用して、自主防災組織の設置を依頼していきます。							



## 王滝村総合戦略 施策評価一覧表

### (2) 火山災害をはじめ安全安心な災害対策

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取り組み	担当課
1	御嶽山噴火対策の推進 (避難施設、ビジターセンター整備、火山マイスター育成 等)	平成28年度に、長野県火山防災ありかた検討会でビジターセンター、マイスターのあり方を検討。	C	マイスターについては、平成29年度に、長野県、木曽町、王滝村で御嶽山マイスター(仮)検討会議で検討中	総務課 経済産業課
2	安全・安心な情報通信体制の整備	防災行政無線、J-ALER T 保守点検を実施。	B	各機器、保守点検を実施。また、保守点検業者とも連絡を取り合い、有事の際に安心して使用できるように努めた。引き続き実施していく。	総務課
3	防災・観光アプリケーションの開発整備及び活用	来訪者向け防災、観光情報発信システム整備事業を実施【加速化交付金】	C	H28地方創生加速化交付金を財源とし、田の原観光センター、スキー場施設へデジタルサイネージ整備等を実施。今後、観光DMOを通じて効果的な活用策を検討していく。	村おこし推進課 総務課
4	消防団の組織再編と機能別団員や女性団員の任用による団員の確保	団員確保のために、積極的な勧誘を行った。	B	団員数については、概ね想定どおりに推移している。引き続き勧誘を行い、団員数確保に努める。また、PRや優遇措置等についても検討していく。	総務課
5	自主防災組織の育成強化	活動はなし	D	消防団の編成とも照らし合わせて、数を増やしていくようにする。	総務課
6	広域消防、近隣町村や関係機関をはじめ役場消防隊や自主防災組織などとの連携強化	消防団と合同で訓練を実施	B	今後も引き続き訓練を実施して、各関係機関との連携を強化していく。	総務課
7	要援護者や高齢者世帯及び一人暮らし高齢者の救助体制の確立	消防団等、関係機関による救助体制の検討	B	定期的に台帳の異動を行い 地域の状況を把握しておく。 登録者及び地域住民が安心して暮らせるように関係機関で情報を共有し 支援業務が的確に行えるように体制を構築	福祉健康課
8	住民支え合いマップの充実と地域との連携による支援体制の強化	従来の台帳の更新を行い、新規登録者を随時追加。	C	整備された台帳が、いざという時に機能できるよう台帳と連動してマップを整備していく。消防、地域住民など関係機関と連携を図り支援ができるような体制づくりを検討する。	福祉健康課
9	防災無線やCATV、携帯電話(防災メール)など情報伝達の多重化	現状維持。	B	今後は、防災無線デジタル化に向け、検討を進めていく。	総務課
10	袋小路の解消(白巣峠など)に向けた取組	取り組みなし。	D		総務課

※担当課が2段書きとなっている項目については、上段の課がとりまとめ。

	(順調) A	0	0.0%	
	(概ね順調) B	5	50.0%	
	(努力を要する) C	3	30.0%	
	(実績なし) D	2	20.0%	
	合計	10	施策	

(3) 安全なくらし

指 標 名	年度	単位	基準値 (H27.11末)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
<b>交通死亡事故ゼロ記録の更新</b>  <b>【備考】</b> 年度末における交通死亡事故ゼロの期間 [交通死亡事故ゼロの期間が続くことが目標]	目標値	日						更新
	実績値		10,765	10,887	11,252			
	進捗区分			順調	順調			
	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>朝の街頭指導</li> <li>学校交通安全教室の開催</li> <li>観光客向け街頭指導所開設</li> </ul>						
進捗状況の分析及び今後の取組	交通死亡事故ゼロの期間が引き続いており順調に推移しています。継続した街頭指導、交通安全教室の実施により、引き続き交通安全意識の継続に取り組みます。 また、高齢者の交通安全対策について、検討し、取り組んでいきます。							
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
<b>消費者被害</b>  <b>【備考】</b> 消費者被害として役場に報告等がされた件数 [0件を維持することが目標]	目標値	件						維持
	実績値		0	0	0			
	進捗区分			順調	順調			
	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>啓発資料の作成・配布</li> <li>郡内での発生事例の情報提供</li> </ul>						
進捗状況の分析及び今後の取組	継続的な啓蒙活動により平成27年度においても被害報告は受けておらず順調に推移しています。 引き続き、啓発資料の作成・配布、郡内での発生事例の迅速な情報提供に努めていきます。							
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
<b>村内巡回バス台数の増</b>  <b>【備考】</b> 年度末における巡回バスの運行台数 [巡回バスの運行台数を2台にすることが目標]	目標値	台						2
	実績値		2	1	2			
	進捗区分			順調	順調			
	主な施策	—						
進捗状況の分析及び今後の取組	平成28年度車両導入、29年度2台体制運行の計画としており、順調に推移しています。 平成29年度から2台運行体制となるよう取り組んでいきます。							

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年 度)	H27年度	H28年度	H29年 度	H30年 度	目標 (H31年度)
<b>村道改良率</b>  <b>【備考】</b> 年度末における村道の改良率 [長期振興計画での平成32年度 目標値を踏まえた数値を目標]	目標値	%						45.4
	実績値		42.0	41.8	41.8			
	進捗区分			努力を要する	努力を要する			
	主な施策	・村道41号線道路改良						
	進捗状況の分析 及び今後の取組	村道41号線の道路改良は平成29年度で完了する予定です。 今後は、道路の維持、防災を重点に取り組むとともに、村道のあり方 について検討を行っていきます。						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年 度)	H27年度	H28年度	H29年 度	H30年 度	目標 (H31年度)
<b>村道舗装率</b>  <b>【備考】</b> 年度末における村道の舗装率 [長期振興計画での平成32年度 目数値を踏まえた数値を目標]	目標値	%						58.6
	実績値		56.0	55.8	55.8			
	進捗区分			努力を要する	努力を要する			
	主な施策	・舗装の維持管理						
	進捗状況の分析 及び今後の取組	現時点では、舗装の維持管理に努めています。 今後は、予算を踏まえながら、必要な箇所への道路舗装に努めると ともに、村道のあり方について検討を行っていきます。						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年 度)	H27年度	H28年度	H29年 度	H30年 度	目標 (H31年度)
<b>通信環境の広帯域化</b>  <b>【備考】</b> 年度末における広域連合が整 備しているインターネット回 線の通信速度 [光ケーブルの一般的な通信速 度である100Mbpsを目標]	目標値	Mbps						100
	実績値		30	30	30			
	進捗区分			努力を要する	努力を要する			
	主な施策	—						
	進捗状況の分析 及び今後の取組	整備には多額の費用が掛かるため、国庫補助の動向も踏まえながら、 広域連合を中心に検討を始めていきます。						

指 標 名	年度	単位	基準値 (H27年 度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
<b>公共等施設の耐震化</b>  <b>【備考】</b> 年度末における非耐震施設の数 [5年間で2施設の耐震化を実施することを目標]	目標値	施設						10
	実績値		12	12	12			
	進捗区分			順調	順調			
	主な施策	—						
	進捗状況の分析 及び今後の取組	平成28年度に策定した王滝村耐震改修促進計画の更新版に基づき、王滝村公共施設等総合管理計画推進委員会（仮称）において施設の優先順位付けを行ったうえで、耐震化に取り掛かる予定にしています。						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年 度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
<b>王滝村公共施設総合管理計画</b>  <b>【備考】</b> 当該年度における王滝村公共施設等総合管理計画の策定状況 [王滝村公共施設等総合管理計画の策定が目標]	目標値							策定
	実績値		—	未策定	策定済み			
	進捗区分			順調	順調			
	主な施策	・ 村有施設財産台帳の整備						
	進捗状況の分析 及び今後の取組	平成28年度に王滝村公共施設等総合管理計画を策定しました。						

王滝村総合戦略 施策評価一覧表

(3) 安全な暮らし

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取組み	担当課
1	防犯対策及び環境対策 LED防犯灯の維持管理	防犯灯修繕、新設	A	老朽化した防犯灯柱の修繕を実施。また、防犯灯未設置箇所に防犯灯を新設した。今後も、住民の要望等を確認しながら、安全を確保していく。	総務課
2	子ども育成会の充実強化など地域をあげて青少年健全育成の推進	子ども育成会指導者研修会 青少年健全育成のための啓発活動	B	子ども育成会による指導者研修会の年複数回の開催 交通安全週間など児童生徒、青少年を見守る機会を捉えての啓発活動実施していく。	教育委員会
3	防犯、交通安全関連優良団体、功労者の表彰	功労者の推薦	B	個人については、数多く推薦し表彰されている。団体についても推薦していく。	総務課
4	家庭、職場、学校、保育園等における交通安全教育の推進	交通安全教室への参加。街頭指導所開設。	B	学校交通安全教室への参加や、街頭指導所を開設することにより交通安全に対する意識を高めることができた。今後も引き続き実施していく。	総務課
5	電動カート講習会開催など安全利用の推進、子どもと高齢者の交通事故防止	電動カート講習会開催に向けた情報収集	C	電動カート講習会開催に向けて、準備を進めたが、実施することができなかった。今後、実施できるようにしていく。	総務課
6	村内危険箇所の点検と交通安全施設の整備	活動はなし	D	点検、整備を実施できなかったため、今後は、安協王滝支部、村共同で点検整備を実施していく。	総務課
7	啓発資料の作成配布	特殊詐欺に関するチラシ等の配布	B	チラシを配布し、防犯意識の高揚を図ることができた。引き続き実施していく。	総務課
8	村内及び近隣町村での発生事例等の情報提供	特殊詐欺被害情報等について、広報で情報提供した。	B	情報提供があった時は、広報で被害に会わないように呼びかけをした。今後も情報提供があった場合、対応していく。	総務課
9	人権啓発、人権教育の推進	「わくわく人権みんなの樹業」と題して小中学校及び一般村民を対象に人権教室を開催 小学校と王寿会等による人権の花運動 広報紙「役場だより」に記事を掲載	B	人権への関心が広がるように引続き人権教室や広報誌等の掲載等を地道に取り組む。	福祉健康課 教育委員会
10	人権相談所、心配ごと相談所の利用促進	村内人権相談所の開設(年2回)、心配ごと相談所の開設(毎月)	B	引続き相談所を開設 利用しやすいような工夫も図る	福祉健康課
11	人権に関する関係機関との連携	関係機関との情報共有 広報誌による啓発	B	人権問題の啓発、解決等を関係機関(教育委員会、学校、行政、人権擁護委員、法務局、木曽郡障がい者自立支援協議会等)と連携を図りながら取り組む。	福祉健康課 教育委員会
12	男女共同参画推進の基盤づくり	特に主だった活動を実施できなかった	D	H29年度中に男女参画基本計画を策定し基盤づくりを図る。	福祉健康課
13	男女平等意識の啓発、普及	広報誌等を活用した啓発	C	引続き今後も広報紙等により意識の啓発等へつながるよう取り組む。	福祉健康課
14	男女が共に働きやすい環境づくりの推進	広報紙による啓発以外の事業は未実施であった	D	地域社会全体の意識の向上を図れるよう広報等を活用した取り組む。	福祉健康課
15	基幹路線バス確保対策事業	前年度並みの便数を確保できている	B	前年度並みの便数を確保する。	総務課
16	村内巡回バス運行事業	平成28年度新規車両1台導入	B	平成29年度中にバス2台による運行体制を確立する。	総務課
17	計画的車両配置整備事業	-	D	-	総務課

18	巡回バス運行事業に携わる運転有資格者の育成及び確保対策事業	平成29年度3名資格取得予定	B	次年度以降も状況により有資格者の確保を進める。	総務課
19	社会福祉協議会への運行委託で実施している過疎地有償輸送との密な連携対策事業	必要に応じ調整会議を開催	B	必要に応じ調整会議を開催する。	総務課
20	道路の定期的な安全点検及び防災事業の実施	道路の定期点検・計画的な道路改良工事	A	道路定期点検委託、橋梁修繕の実施、村道41号線道路改良工事の実施。	経済産業課
21	村民との協働作業による維持管理	村内草刈り・地区内の除雪作業	A	住民の負担にならない様に村内の草刈り実施、地区内の除雪作業(要望地区への除雪機の配備)の実施	経済産業課
22	既存ケーブルテレビを活用したデジタル自主放送設備の整備	木曾広域連合と設備整備を協議しながら、ソフト面で小中学校音楽会のCATV放送を行った	B	平成29年度も音楽会の放送を予定している。	総務課
23	(広域)木曾高度情報通信網の整備	木曾広域連合において全線光回線化の検討が進んでいる。	B	平成29年度に総務省から補助金の内容が示されたため、事業費などの試算を進める。実施については未定。	総務課
24	電子自治体の推進	県外向け商品券の申込は電子申請を利用した。	B	電子申請が可能な申込を増加させる。	総務課
25	王滝村耐震改修促進計画の策定	計画の見直し作業中	C	平成29年上半期で見直し完了。	総務課
26	公共施設・災害時避難所・集会施設等の更新・耐震化に向けた優先順位付け	公共施設等総合管理計画推進会議の設立と会議の開催による検討	B	年内の設立と会議の開催。	総務課
27	インターネットを使った公共財産の売買等情報提供の充実	村ホームページへの掲載を検討	C	売買物件の精査から開始。	総務課
28	公共施設あり方検討委員会によるコスト削減の具体化の検討	公共施設等総合管理計画推進会議の設立と会議の開催による検討	B	年内の設立と会議の開催。	総務課
29	村民からの意見交換による活用策の検討	公共施設等総合管理計画推進会議の設立と会議の開催による検討	B	年内の設立と会議の開催。	総務課
30	使用不能な公共施設の計画的改修撤去	公共施設等総合管理計画推進会議の設立と会議の開催による検討	B	年内の設立と会議の開催。	総務課
31	王滝村絆助成事業の実施	団体の絆助成事業の実施	B	平成28年度は7団体が実施。業者発注の比率が極めて高い事業も見受けられ採択基準なども含めて今後、見直しを検討していく。	村おこし推進課
※担当課が2段書きとなっている項目については、上段の課がとりまとめ。					
		(順調) A	3	9.7%	
		(概ね順調) B	20	64.5%	
		(努力を要する) C	4	12.9%	
		(実績なし) D	4	12.9%	
		合計	31	施策	

## 2【移住・交流】村の特性を活かした移住・交流を進めます

### (1) 幸せを感じる村づくりによる移住促進

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年 度)	H27年度	H28年度	H29年 度	H30年 度	目標 (H31年度)
<b>テレワーカー等行政関 与の移住</b>  <b>【備考】</b> 年度末時点のテレワーカー等行政 関与による移住者の数 [年間1人程度の移住者を目標]	目標値	人						5
	実績値		—	1	0			
	進捗区分			順調	努力を要する			
	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・サテライトオフィスとなる施設の整備</li> <li>・「おうたき寺子屋」の開設</li> <li>・地域おこし協力隊員の採用</li> </ul>						
	進捗状況の分析 及び今後の取組	テレワークの推進、地域おこし協力隊の定住サポートの取組により 移住者の確保に努めていきます。						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年 度)	H27年度	H28年度	H29年 度	H30年 度	目標 (H31年度)
<b>地域おこし協力隊員の 採用</b>  <b>【備考】</b> 地域おこし協力隊員の累計採 用数 [毎年2名程度の採用を目標]	目標値	人						15(累計)
	実績値		5(累計)	8(累計)	9(累計)			
	進捗区分			順調	順調			
	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・地域おこし協力隊員の採用</li> </ul>						
	進捗状況の分析 及び今後の取組	隊員を随時採用し順調に推移しています。 地域おこし協力隊員への定住サポートの取組を引き続き行うとともに 地域の活性化に向けて地域おこし協力隊の採用を進めていきます。						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年 度)	H27年度	H28年度	H29年 度	H30年 度	目標 (H31年度)
<b>サポートによる結婚</b>  <b>【備考】</b> 年度における行政、関係機関が 関与した婚姻の数 [行政、関係機関が関与した婚 姻が成立することを目標]	目標値	組						1以上
	実績値		—	0	0			
	進捗区分			努力を要する	努力を要する			
	主な施策	—						
	進捗状況の分析 及び今後の取組	個人情報保護の観点から行政によるサポートのあり方につ いて、他町村での取組などを調査研究し、取組方法を検討していきま す。平成29年度は、村おこし推進課に専門の相談窓口を設置し、取り 組みを推進します。						

## 王滝村総合戦略 施策評価一覧表

### (1) 幸せを感じる村づくりによる移住促進

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取り組み	担当課
1	ふるさとテレワークの推進	おためしナガノ&ときどきナガノ事業の活用	C	県の事業へエントリーしたが希望者がいなかった。今後も継続した事業展開が必要。	村おこし推進課
2	老朽化した住宅の更新整備、新設住宅整備の検討	公共施設等総合管理計画推進会議の設立と会議の開催による検討	B	年内の設立と会議の開催。	総務課
3	移住相談窓口の設置、移住体験の推進	信州移住セミナーへの参加、長野県移住コンシェルジュへの登録	C	今年度初めて東京都で開催された移住セミナーへ参加した。来年度中に移住コンシェルジュへの登録をしたい。	村おこし推進課
4	空き家、住宅情報の提供	田舎暮らし「楽園信州」、村ホームページでの情報発信	D	田舎暮らし「楽園信州」や村ホームページを活用したい。	村おこし推進課 総務課
5	定住促進のための就労相談、就職情報の提供	首都圏等での相談会への出席 田舎暮らし「楽園信州」での情報発信	C	地域おこし協力隊員の採用などにつながり効果が見られた。今後も継続した事業展開を行う。	村おこし推進課
6	住宅整備における地元産材の活用と山林所有者との連携しくみづくり	村営住宅整備時プロポーザルへの条件提示	D	長期的な計画で地域材のストック場所の確保が必要。	経済産業課 総務課
7	定住環境の魅力アップ	地域おこし協力隊制度による空家整備	C	定住に向けて必要となる環境整備の推進を図る。	村おこし推進課
8	田舎暮らしの良さのPR情報通信網の整備	田舎暮らし「楽園信州」での情報発信	C	田舎暮らし「楽園信州」のホームページがリニューアルされ内容が充実した。定期的な更新を心がけたい。	村おこし推進課
9	森林資源活用のための基礎調査	木質バイオマスエネルギー導入計画策定業務	B	村内及び郡内の木質バイオマス賦存量調査と、林地残材・未利用材収集実験を実施。利用可能量を基に活用方法を検討する。	村おこし推進課
10	村民参加による王滝村のランドデザイン	王滝村総合戦略会議の開催 各分野の専門的会議等での施策検討	C	長期振興計画、総合戦略を王滝村の基本計画、ランドデザインと位置づけ、各分野の専門的会議等を通じて村民参加により施策推進に取り組む。	村おこし推進課
11	ひとり親家庭も含めた子育て世代の移住促進プロジェクト	先進地事例の研究	D	長野県等の取り組みに注視し検討、受入体制の整備も必要。	村おこし推進課
12	独身者の状況把握	独身者の状況把握	D	個人情報の関係もあり把握が難しいが、地道に取り組むたい。	村おこし推進課
13	相談窓口の設置	相談窓口の設置及び職員配置	D	H29に役場内に相談窓口を設置したい。	村おこし推進課
14	行政、関係機関とのサポート体制づくり	様々な媒体を通じた積極的な情報提供	C	情報の共有、サポート体制のあり方について検討を行います。	村おこし推進課
15	出会い、交流の場の提供	村公民館を拠点とした取り組み	D	各種団体・関係機関と連携しての婚活事業の実施。	村おこし推進課

※担当課が2段書きとなっている項目については、上段の課がとりまとめ。

	(順調) A	0	0.0%	
	(概ね順調) B	2	13.3%	
	(努力を要する) C	7	46.7%	
	(実績なし) D	6	40.0%	
	合計	15	施策	



(2) 下流域地域など交流の一層の充実

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年 度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
<b>ふるさと村民数</b>  <b>【備考】</b> 年度末におけるふるさと村民登録者数 [ふるさと村民登録者数が3倍程度になることが目標]	目標値	人						350
	実績値		119	240	324			
	進捗区分			順調	順調			
	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・村HPでの周知</li> <li>・下流域市町との交流での制度周知</li> </ul>						
	進捗状況の分析 及び今後の取組	登録者数が増加し、順調に推移しています。 ふるさと村民地域づくりアドバイザーの知恵を借り、更なる下流域などとの交流促進に努めながら、村の応援団である「ふるさと村民」への登録に繋げていきます。						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H27年)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
<b>下流域市町とのふれあい交流</b>  <b>【備考】</b> 年間(年度)の王滝村での役場を介した下流域市町との交流事業の回数 [下流域からの交流事業での来村回数を基準値から1割程度増やすことが目標]	目標値	回						34
	実績値		31	39	35			
	進捗区分			順調	順調			
	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・緑のバトン事業</li> <li>・下流域市町等の森林整備</li> <li>・水源の森パートナー事業</li> </ul>						
	進捗状況の分析 及び今後の取組	御嶽山噴火災害復興支援もあり予想を上回る状況となっています。 現在の交流が途切れることのないよう努めていきます。						

## 王滝村総合戦略 施策評価一覧表

### (2) 下流域地域など交流の一層の充実

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取組み	担当課
1	企業団体等との連携による水源の森づくり事業の促進	牧尾ダム水源の森づくりパートナー協定の締結	B	5団体と協定。継続と新規団体との協定締結をめざす。	村おこし推進課
2	下流域及び企業ボランティアの募集	牧尾ダム水源の森づくりパートナー協定の締結	B	5団体と協定。継続と新規団体との協定締結をめざす。	村おこし推進課
3	交流促進のための施設整備	利用可能な有休施設の把握	D	地域住民との交流方法等について検討し、それに沿った施設内容を調査する。	村おこし推進課
4	交流による経済、文化など地域活力の向上	下流市町開催の産業まつり等への参加	D	地域活力の向上までには至らない。検討が必要。	村おこし推進課
5	村民と都市住人共同による森林の保全再生活動	未来世紀へつなぐ緑のパートナー事業 水と緑の感謝祭の開催	B	森林整備等で下流市町等から来村。今後、共同で保全再生を行う体制を構築する必要がある。	村おこし推進課
6	魅力ある村づくりプロジェクト	王滝村での木質バイオマス利活用事業(案)の作成	D	住民と共に森づくり・自然エネルギーの勉強会等を開催する中で、推進コンセプト等の検討をおこなうプロジェクトとしたい。	村おこし推進課
7	公共施設集約化事業・村有地の利活用に向けた整備	公共施設等総合管理計画推進会議の設立と会議の開催による検討	B	年内の設立と会議の開催	総務課
8	交流の拠点づくり	先進地事例の研究	D	世代毎、世代間の交流ニーズについて調査を行いたい。	村おこし推進課
※担当課が2段書きとなっている項目については、上段の課がとりまとめ。					
		(順調) A	0	0.0%	
		(概ね順調) B	4	50.0%	
		(努力を要する) C	0	0.0%	
		(実績なし) D	4	50.0%	
		合計	8	施策	

### 3【産業】新たな産業や観光振興による村内の雇用の創出を図ります

#### (1) 観光資源の活用による地域振興

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年)	H27年	H28年	H29年	H30年	目標 (H31年)
観光地利用者延数 (宿泊者)	目標値	人						83,200
	実績値		71,000	27,200	34,800			
	進捗区分			努力を要する	努力を要する			
	【備考】 県観光地利用者統計調査における年間宿泊数 [年間2,500泊程度の増を目標]	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カヌーツアーの実施</li> <li>・DCキャンペーンによるPR</li> <li>・県外者向けプレミアム商品券の発行</li> <li>・冬季シーズン優待券発行</li> <li>・復興対策キャンペーンの実施</li> </ul>					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	<p>御嶽山の噴火以降、入山規制や風評被害等により観光客は、まだまだ戻ってきていない状況です。</p> <p>観光コンテンツの掘り起こしや磨き上げ、情報発信に努めるとともに、引続き動機づけツール等を活用し、入込客増を目指します。</p>						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
ツアーガイドの養成	目標値	人						10(累計)
	実績値		5	7(累計)	8(累計)			
	進捗区分			順調	概ね順調			
	【備考】 年度末におけるアウトドアに関するガイドの養成数 [年間1人程度のガイドの養成を目標]	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・カヌーツアーガイドの養成</li> <li>・滝行ガイド養成の取組</li> </ul>					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	<p>カヌーツアーガイドの養成は精力的に実施しており順調に進んでいる。</p> <p>平成28年度は、新たに滝行ガイドの養成にも取り組み始めました。次年度にツアーの催行を目指します。</p> <p>また、他分野のガイドの養成にも取り組んでいきます。</p>						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
御岳湖カヌー利用者数	目標値	人						1,000
	実績値		140	658	591			
	進捗区分			順調	概ね順調			
	【備考】 御岳湖カヌーツアーの年度利用者数 [一月平均150人程度の利用を目標]	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ラジオ、雑誌、HP、イベントを活用した広告宣伝</li> <li>・インターネット予約サービス</li> <li>・DCキャンペーンによるPR</li> </ul>					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	<p>平成28年8月後半からのダムの濁水、9月の天候不順により9月の落ち込みが大きく、対前年90%となった。</p> <p>引き続き、主カヌーツアーとしてキャンペーンのタイアップなどの誘客活動に取り組んでいきます。</p>						

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年 度)	H27年度	H28年度	H29年 度	H30年 度	目標 (H31年度)
スポーツ合宿受入団 体・来村者数	目標値	団体						15(700)
	実績値	(人)	9(500)	10(475)	11(630)			
	進捗区分			概ね順調	順調			
	【備考】 年度における村有施設利用団 体数及び施設利用者の延数 [年1団体程度の増を目標]	主な施策	—					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	<p>団体数は1団体増え、利用者数についても3割強増と順調に推移している。</p> <p>これは、事業者が独自に合宿誘致サイトに登録するなどして受入団体を増やしたものである。</p> <p>今後も合宿誘致に積極的な施設の支援とともに、受入環境の整備を進めます。</p>						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年 度)	H27年度	H28年度	H29年 度	H30年 度	目標 (H31年度)
観光路線バスの運行期 間拡大	目標値	日						運行期間の増
	実績値		夏・秋 (108)	夏・秋 (71)	夏・秋 (40)			
	進捗区分			努力を要する	努力を要する			
	【備考】 観光路線バスの年間運行期間 [年間運行期間を拡大すること が目標]	主な施策	御嶽山入規制により、休日みの運行となった。					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	<p>平成26年9月の御嶽山噴火災害の影響により平成28年度まで運行期間を短縮しています。</p> <p>御嶽山の噴火警戒レベルの状況を踏まえながら運行期間の検討を行います。</p>						

## 王滝村総合戦略 施策評価一覧表

### (1) 観光資源の活用による地域振興

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取り組み	担当課
1	村ブランドストーリーの展開 【いのち呼び覚ますところ 「おんたけ王滝」】	ブランドコンセプトに沿った ウェブサイトの更新、動画 製作、SNS等による情報発信	C	今まで集積してきたブランドストーリーを継承 しつつ、新たに設立される木曽おんたけ観光 局における新たなブランドコンセプトの検討を 行う。	村おこし推進課
2	新たなツーリズムの開発と、 住民・観光客への自然環 境保護の啓発	王滝村の自然紹介本の更 新、印刷製本 ダムを活用したツーリズム 国有林を活用したツーリズム 森林・林業体験交流促進 対策検討委員会	C	H28民間事業者によるダムツアーや国有林 ウォーキングを実施。引き続き、観光事務所・ 森林管理署等と連携し、地域資源を活用した 新たなツーリズムの開発、検討を行う。	村おこし推進課
3	ツアーガイドの養成と活用	カヌーツアーガイドの養成	D	引き続きカヌーツアーガイドの養成とスキル アップに取り組むとともに、多分野におけるガ イド養成に取り組む。	村おこし推進課
4	利用者の立場に立った観 光地の整備	清滝・新滝の歩道整備 銀河村キャンプ場等村有 施設の改修	B	H28地方創生加速化交付金を財源とし、清 滝・新滝遊歩道の大規模改修を実施。今後、 サイン整備を含めた御嶽古道の環境整備を 推進する。	村おこし推進課
5	おもてなしの心、受入体制 の充実	外国人向けマップの製作 事業者向け英会話教室の 開催 外国人モニターツアーの実 施	C	引き続き、おもてなしの心、受入れ体制の充 実など、インバウンド対応を加えたソフト面の 受入環境向上に取り組む。	村おこし推進課
6	エコツーリズムの拡大と積 極的な推進	森林ホースセラピーの事業 化	C	平成29年度ホースセラピー事業化に向けて 施設、コースの整備等、積極的に取り組む。	村おこし推進課
7	ICTを活用した観光施設支 援事業	来訪者向け防災、観光情 報発信システム整備事業	C	H28地方創生加速化交付金を財源とし、田の 原観光センター、スキー場施設ヘデジタルサ イネージ整備等を実施。今後、インバウンド対 応も含め、効果的な支援策を検討していく。	村おこし推進課
8	村民や民間団体を主体と する観光振興	各種アウトドアイベントの実 施 おんたけ湖ハーフマラソン 大会の実施	B	引き続き住民や民間団体主体のイベントへの 支援を実施していく。	村おこし推進課
9	観光路線バス事業の継続 と地元観光業者との運行協 力体制の確立	御嶽山入山規制により、運 行日数を抑制	C	関係機関と連携を密にして、最善の運行協力 体制を確立していくとともに、DMO事業により 2次交通の検討を始める。	総務課
10	合宿誘致などトレーニング コースの整備(松原スポ ーツ公園リニューアル、クロス カントリーコースの設置)	合宿誘致対策事業【加速 化交付金】	C	H28地方創生加速化交付金を財源とし、合宿 誘致に関する調査研究事業を実施。今後、 調査結果を踏まえて、計画的なコース整備を 目指す。	村おこし推進課
11	アウトドアスポーツの一層の 推進	「スポーツ王国王滝」の推 進	B	引き続き「スポーツ王国王滝」を旗印として掲 げ、既存コンテンツの更なる磨き上げと、新た なツーリズム・プログラムの開発に取り組む。	村おこし推進課
12	新たな観光戦略の策定・推 進「世界水準の滞在型観 光地」「日本遺産」	「世界水準の滞在型観光 地」を目指し日本版DMO の設立	A	DMOを核として、山岳高原の地域資源を活 かした世界水準の滞在型観光地づくりに積 極的に取り組みます。また、日本遺産との連 携を図り、新たな観光戦略を推進する。	村おこし推進課
13	木曽地域の資源を活かした 広域観光地づくりの推進	木曽おんたけ観光局(木曽 町と連携) 日本遺産(7市町村で連 携)	B	山岳高原を活かした世界水準の滞在型観光 地づくり、日本遺産登録による自然的、歴史 的資源の価値向上と発信に他自治体等と連 携して取り組む。	村おこし推進課

14	日本版DMOの推進	(社)木曾おんたけ観光局 が平成29年4月の法人登記 に向けた各種取組み	A	木曾おんたけ観光局自立に向け、地域全体 として事業への理解、事業参加、事業のPRを 行い、地方創生推進交付金などを活用した 財政的支援やハード整備を担い、観光を軸と した地域づくりの支援を積極的に行う。	村おこし推進課
				※担当課が2段書きとなっている項目については、上段の課がとりまとめ。	
		(順調) A	2	14.3%	
		(概ね順調) B	4	28.6%	
		(努力を要する) C	7	50.0%	
		(実績なし) D	1	7.1%	
		合計	14	施策	

(2) 自然エネルギーの活用による雇用創出

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年 度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年 度	目標 (H31 年度)
<b>新たな雇用創出</b>  <b>【備考】</b> 年度末における木質バイオマス等自然エネルギーの活用に伴った雇用者の数 [自然エネルギーの活用を雇用に繋げ、雇用者が30人になることが目標]	目標値	人						30
	実績値		—	—	—			
	進捗区分			実績値なし	実績値なし			
	主な施策	—						
	進捗状況の分析及び今後の取組	自然エネルギーの活用による雇用創出については、研究を始めたばかりのものであるので今回は実績値なしとします。 王滝村の自然を生かし、木質バイオマスの活用について研究を進めていきます。						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年 度)	H27 年度	H28 年度	H29 年度	H30 年 度	目標 (H31 年度)
<b>年間木材搬出量</b>  <b>【備考】</b> 年間（年度）の村内における木材搬出量 [村内における木材搬出量を5倍程度にすることが目標]	目標値	m <sup>3</sup>						500
	実績値		110	220	100			
	進捗区分			順調	努力を要する			
	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 搬出コスト削減のための作業路網の整備</li> </ul>						
	進捗状況の分析及び今後の取組	木材の搬出量は森林組合の工事検査が終了しない為、搬出量が翌年度換算になる為搬出量は低調に推移しています。						

## 王滝村総合戦略 施策評価一覧表

### (2) 自然エネルギーの活用による雇用創出

施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取り組み	担当課
1 木質バイオマス事業の推進	木質バイオマスエネルギー導入計画策定業務	C	木質バイオマスの基本調査結果を基に事業化に向けた計画を策定する。	村おこし推進課 経済産業課 総務課
※担当課が3段書きとなっている項目については、上段の課がとりまとめ。				
	(順調) A	0	0.0%	
	(概ね順調) B	0	0.0%	
	(努力を要する) C	1	100.0%	
	(実績なし) D	0	0.0%	
	合計	1	施策	



### (3) 地域に根ざした産業の振興

指 標 名	年度	単位	基準値 (H24 年)	H27 年度	H28 年度	H29 年 度	H30 年 度	目標 (H31 年度)
卸・小売業の年間商品 販売額(1 人当たり年 間商品販売額)	目標値	万円						毎年1%の向上
	実績値		1,026	—	—			
	進捗区分			実績値なし	実績値なし			
	【備考】 経済センサス又は商業統計速 報での王滝村の卸・小売業の年 間商品販売額(1 人当たり年間 商品販売額) [毎年1%向上することを目 標]	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・プレミアム商品券の発行</li> <li>・優待券の発行(ありがとうキャンペーン)</li> </ul>					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	<p>平成 28 年度経済センサス活動調査が実施されたが、速報等の調査結 果が公表されておらず、平成 28 年度分現時点については算定が不可能 なため実績値なしとします。</p> <p>引き続き、村内の消費喚起に資する施策を実施していきます。</p>						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26 年 度)	H27 年度	H28 年度	H29 年 度	H30 年 度	目標 (H31 年度)
遊休農地面積	目標値	ha						11
	実績値		13	15	11			
	進捗区分			努力を要する	努力を要する			
	【備考】 年度末における遊休農地面積 [遊休農地を 15%程度減少させ ることを目標]	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・省力化農産物の掘り起こし</li> <li>・王滝かぶ等特産作物の作付け誘導及び維持</li> </ul>					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	<p>高齢化による耕作放棄に歯止めがかからない状況となっています。 新たな担い手の確保に向けて取り組んでいきます。</p>						

(3) 地域に根ざした産業の振興					
	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取り組み	担当課
1	企業誘致のための条件整備	王滝村創業支援事業計画の策定	C	地域における創業を促進するため地域の産業経団体や金融機関との連携により、創業支援に関する事業計画を新たに策定しました。	村おこし推進課
2	農林商工連携による新たな産業の創造	観光事務所や商工会と農林産物加工販売業者が連携した物産展等への出展、販売促進	D	農林業者・農林産物加工販売者・商業・飲食店・宿泊施設などの連携体制づくりに取り組みます。	村おこし推進課 経済産業課
3	六次産業化への支援	先進地事例の研究	D	生産・加工・販売が一体となった、六次産業支援に向けて体制づくりに取り組みます。	村おこし推進課 経済産業課
4	村内事業の受け皿となる事業所の設立	既存村内事業の状況把握、課題整理	D	既存村内事業の状況把握、課題整理を進め、村内事業の受け皿となる事業所の設立を検討していきます。	村おこし推進課 経済産業課
5	省力化農産物の掘り起こしと王滝かぶ等特産物の作付け誘導及び維持	王滝かぶ委託採種契約、種購入 西洋わさび試験栽培支援	C	王滝かぶ作付け誘導について、新規就農等がないため、進まないのが現状。協力隊等で農業を真剣にやってみよう人の募集や、西洋わさびの耕作拡大等行っていく。	経済産業課
6	合理化組合の生産組織経営体(農業法人化)への発展的再編	そば作付け委託関係事務処理補助 役員会・総会への出席	D	毎年同じ体制で進展は望めないのが現状。法人化は難しいので、今の体制での強化を進めていく。(新規役員への交代、オペレーターの育成)	経済産業課
7	農地の利用集積の促進による遊休農地の発生防止と有効利用の促進	未利用権設定者に対して利用権設定の促進	C	これ以上農地を借りて耕作する人がいないのが現状。定年退職した人等で農業に興味がある人に耕作を進める等地道な活動を実施する。	経済産業課
8	防除・駆除・環境整備の観点から効果的かつ総合的な有害鳥獣対策の継続実施	有害獣防除事業補助の実施 有害獣追払い等のパトロール実施	C	補助要件の見直しやパトロールの在り方を検討する。今まででた、要望や反省点等整理し、より良い防除につながるよう工夫し努める。	経済産業課
9	自然との調和を基調とした農村環境の整備	農道・用水・施設周りの草刈実施	C	農業担当1名のためすべては実施できない。今後についても地区等で実施してもらいながら職員での実施も強化していく。	経済産業課
10	遊休・荒廃農地の増加を抑え、解消するための様々な事業展開	農地のなんでも相談受付 下限面積の引下げによる農地移動制限の緩和	C	農地相談がなかなかない。引き続きなんでも相談を受けるとともに、王滝村で出来そうなことを研究し実行していく。	経済産業課
11	造林事業の促進による森林保全	人工林の長伐期施策における森林保全	C	国の補助金減により財源確保が課題。森林保全基金の確保を促進する	経済産業課
12	森林組合との長期施業委託	森林組合での集約化事業による面的整備	C	国の補助金体制の変更による対象林分の減少。森林税と合わせ面的整備を推進する。	経済産業課
13	間伐材の利用促進による自然エネルギーの有効活用	木質バイオマス関連事業を注視し検討する。	D	地元での木質バイオマス事業の進展がない為動向を注視する。木曾町の木質バイオマス事業の調査を実施。	経済産業課
14	森林路網整備による低コスト木材の搬出	計画的作業路を進め木材搬出量確保	D	搬出に係る補助体制の変更によるシステム契約の推進(受入先との契約)	経済産業課
15	公共事業での木材利用の促進	公共事業での木材利用の促進	D	地域材の確保が課題。計画的な建設による地域材のストック場所の確保が必要	経済産業課
16	除間伐材の利活用による新規起業支援(間伐材での利活用、除伐材は薪原木)	利活用に向けた取り組みの推進。	C	薪利用に向けた取り組みの継続	経済産業課
17	木材販売における「王滝」ブランド化の推進	長伐期を念頭においた良質材のブランド化	D	高齢級の良質材販売がない為、今後「王滝ブランド」の周知を図る。	経済産業課

18	安定した特産品の生産を推進し、新たな特産品開発と販路拡大	地域おこし協力隊員による特産品の継承、販路拡大の施行	D	伝統的な特産品・郷土食のPR等に取り組みつつ、DMOの5年間実施計画の中に、ECサイト構築やお土産等販売促進の事業メニューを盛り込み、新たな特産品開発と販路拡大を目指します。	村おこし推進課
19	村内消費の拡大	村内プレミアム商品券の発行 2,000セット 村外プレミアム商品券の発行 2,000セット 冬季宿泊助成券の発行 6,000セット	B	引き続き、村の経済状況を注視しながら、必要に応じて、プレミアム商品券の発行など、村内消費につながる対策を講じます。	村おこし推進課
20	特産品のブランド化を推進	銀座ながのへ店頭出品申請	D	H28東京のアンテナショップ「銀座ながの」へ村の特産品の店頭出品申請を初めて試みたが認可を受けることができなかった。引き続き、各種機関と連携し、情報発信を中心とした、特産品のブランド化を推進します。	村おこし推進課
21	既存事業者の資金調達制度の適正運用	村小規模企業振興資金利用者への保証料・利子の補給 県制度資金利用者への保証料・利子の補給	B	引き続き必要に応じて施策を実施していきます。	村おこし推進課
22	宿泊施設等の世代交代の円滑な推進	観光事務所による状況把握、課題整理など	D	宿泊施設等の世代交代の円滑な推進を支援していきます。 インターンシップの試行など検討していきます。	村おこし推進課
※担当課が2段書きとなっている項目については、上段の課がとりまとめ。					
		(順調) A	0	0.0%	
		(概ね順調) B	2	9.1%	
		(努力を要する) C	9	40.9%	
		(実績なし) D	11	50.0%	
		合計	22	施策	

#### 4【子育て・福祉】子育て環境の整備を促進し子どもの声が響き渡る村をつくります

##### (1) 子育てにやさしい村づくり

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年 度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
ファミリーサポートシ ステムの構築	目標値							実現
	実績値		—	—	0			
	進捗区分			実績値なし	概ね順調			
	【備考】 ファミリーサポートシステムの 構築の状況 [地域での相互扶助による子ど もの一時預かりサービスである ファミリーサポートシステムを 構築することが目標]	主な施策	子育て支援会議を2回開催し検討を行った					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	平成28年度はファミリーサポートシステムについて関係者会議を 行い来年度実現へ向けて検討を図った。 平成29年度中にシステムを構築することを目標に、これから「子 ども・子育て支援会議」の中で制度設計を検討していきます。						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年 度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
郊外学習塾の開設	目標値	箇所						1
	実績値		—	1	1			
	進捗区分			順調	順調			
	【備考】 年度末における村内の郊外学習 塾の設置数 [子供たちがその持てる力をより伸 ばそうとする意欲を高めることが できる施設の設置を目標]	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・「おうたき寺子屋」の開設</li> <li>・「学校法人信学会」と連携した遠隔教育</li> </ul>					
	進捗状況の分析 及び今後の取組	信学会と協定を結び同会のバックアップのもと「おうたき寺子屋」 を開設することができ、ひとまず目標を達成することができました。 今後は、中学生を対象にした信学会コンテンツを活用した授業は、 受講者からは好評であったことから、高校生も視野に入れた取組を実 施していきます。						

## 王滝村総合戦略 施策評価一覧表

### (1)子育てにやさしい村づくり

施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取組み	担当課
1 子育て家庭への経済的支援体制	木曾町子どもセンター利用補助制度の実施 予防接種費用の助成(H25～) 保育料、学校給食費の無料化の実施	B	引続き今後も継続していきます。	福祉健康課
2 子育てサポート、子ども・子育て支援事業	子ども子育て会議にてファミリー・サポート・センター事業について検討(2回)	B	H29年度中にファミリー・サポート・センターを設置して、年に1回程度会員間の交流を行い、子育てが家族が孤立感を抱くことなく安心して地域で子育てができるよう取組みます。また、改善の必要なところは利用者とともに見直しを行っていきます。	福祉健康課
3 地域との連携による子育て支援体制の確立	放課後子ども教室の開設	B	引続き今後も継続していきます。	福祉健康課
4 児童虐待防止に関する人権相談所・心配ごと相談所の利用促進	子ども人権相談所の開設(木曾管内) 民生委員による心配ごと相談所の開設(毎月) 親子支援連絡会議の開催 要保護児童地域対策実務者会議の開催	B	村の子育ての課題について関係機関との共有及び連携を図り、一貫した支援が図られるよう今後も引続き継続して取組みます。	福祉健康課
5 親子支援に関する関係機関の連携体制の整備	親子支援に関する関係機関の連携確保のための会議日程の確保や学校と共催で赤ちゃんふれあい事業の開催。	B	関係機関と連携を図りながら引続き今後も取組んでいきます。	福祉健康課
6 未来の寺子屋プロジェクト	王滝寺子屋の開設	B	信学会との協定により開設できた。今後、更なる充実を図りたい	村おこし推進課
7 特色ある保育所づくり	地域(お年寄りなど)や他園との交流事業	B	王寿会との交流会、デイサービス利用者との交流を実施 三岳保育園との交流事業を4回実施	教育委員会
※担当課が3段書きとなっている項目については、上段の課がとりまとめ。				
	(順調) A	0	0.0%	
	(概ね順調) B	7	100.0%	
	(努力を要する) C	0	0.0%	
	(実績なし) D	0	0.0%	
	合計	7	施策	

(2) 教育環境の充実

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年 度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
<b>タブレット端末の整備</b>  <b>【備考】</b> 年度末における中学校でのタブ レット端末の整備数 [中学生が各々に自分の課題に 応じた学習ができるよう 1 人 1 台配置することを目標]	目標値	台						1人1台
	実績値		3	3	15			
	進捗区分			順調	順調			
	主な施策	・個人学習や調べ学習でのタブレット端末の活用						
進捗状況の分析 及び今後の取組	平成 30 年度までの購入計画を策定し、タブレット端末の整備に関 しては順調に推移しています。 現時点での予定では、平成 29 年度中には目標である中学生 1 人 1 台の配置が完了します。							

## 王滝村総合戦略 施策評価一覧表

### (2) 教育環境の充実

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取り組み	担当課
1	情報教育環境の整備	タブレット端末整備やPCを活用した教育活動の実践	A	事業を継続させるとともに、ICT教育活動の時間数確保など計画的に実施	教育委員会
2	児童・生徒数にあった指導計画の作成	ALTによる学習指導 複式学級解消のための支援員配置と個々に応じた指導計画作成	B	児童生徒個々に応じた指導計画作成と指導体制の継続及び実施	教育委員会
3	学校支援ボランティアの育成	学校と地域が連携した学習活動の展開 公民館との連携による学校地域連携コーディネーター育成	B	* 村民がより学校運営に参画しやすい体制の整備を行う * 学校と公民館が連携し、講座等でのコーディネーター育成を図っていく	教育委員会
4	学習プログラム(長期、短期)の作成	児童生徒個々に応じた学習プログラム作成 学校地域連携コーディネーターを交えた検討会議	C	学校支援会議等を通じ検討会議を随時行っていく	教育委員会
5	他校との交流(近隣町村校、御前崎中学校等)	御前崎中学校との相互交流事業の継続実施 芸術鑑賞や文化に触れる学習活動での近隣町村学校との交流開催	B	* 御前崎中学校との交流事業は継続実施 * 芸術鑑賞等近隣の教育委員会との協議の場を早急に設定し検討していく	教育委員会
6	学校修繕計画の実施	小学校及び中学校棟屋根修繕 プール修繕	B	* 小中学校屋根修繕についてはH28年度より随時実施 * プール修繕については、使用頻度を踏まえ修繕計画により検討していく	教育委員会
7	小中学校の魅力発信事業	* HPを通じた学校の魅力発信や児童生徒活動報告 * 公民館と連携した村内外への活動発表 * 子ども未来プロジェクトの継続	B	より多くの村民の皆さんに活動状況を知ってもらうための機会の設定を行うとともに校外活動を一層充実させていく	教育委員会
※担当課が3段書きとなっている項目については、上段の課がとりまとめ。					
		(順調) A	1	14.3%	
		(概ね順調) B	5	71.4%	
		(努力を要する) C	1	14.3%	
		(実績なし) D	0	0.0%	
		合計	7	施策	

### (3) 高齢者等が安心して過ごせる村

指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年 度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
医療施設(内科・外科) の維持  【備考】 年度末における村診療所の医師 の数 [村診療所の維持を目標]	目標値	人						維持
	実績値		1	1	1			
	進捗区分			順調	順調			
	主な施策	・常勤医師の雇用						
	進捗状況の分析 及び今後の取組	常勤医師1名を確保できているため、村診療所が維持され、順調に 運営されている。 引き続き常勤医師の確保に努めていきます。						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年 度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
医療施設(歯科)の維持  【備考】 年度末における村歯科診療所の 歯科医師の数 [村歯科診療所の維持を目標]	目標値	人						維持
	実績値		1	1	1			
	進捗区分			順調	順調			
	主な施策	・JAとの歯科医師派遣委託						
	進捗状況の分析 及び今後の取組	JAと歯科医師の週2日派遣を委託契約していることから、村歯科診 療所が維持され、順調に運営されている。 引き続き、歯科診療所が維持できるよう努めていきます。						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年 度)	H27年度	H28年度	H29年度	H30年度	目標 (H31年度)
特定健診受診率  【備考】 村民の当該年度における特定健 診の受診率 [厚生労働省の特定健康診査等 基本指針における市町村国保の 目標値を目標]	目標値	%						60.0
	実績値		36.8	42.1	41.8			
	進捗区分			順調	順調			
	主な施策	・特定健診						
	進捗状況の分析 及び今後の取組	対象者へ個別に案内を出すなどの取組みにより受診率は順調に推 移しています。 更なる受診率向上に向けて、健診機会の拡充、周知等を検討します。						



指 標 名	年度	単位	基準値 (H26年 度)	H27年度	H28年度	H29 年度	H30年度	目標 (H31年度)
生活習慣病による死亡 者数	目標値	人						減少
	実績値		11	—	—			
	進捗区分			実績値なし	実績値なし			
<b>【備考】</b> 年度における村民の生活習慣病 を起因とする死亡者数 [生活習慣病を起因とする死亡 者数が減少することを目標]	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 特定検診結果返却会の村内各地での実施</li> <li>・ 健康づくり教室の実施</li> </ul>						
	進捗状況の分析 及び今後の取組	<p>生活習慣病による死亡者数については、厚生労働省に使用許可の申請中のため実績値なしとします。</p> <p>特定検診の結果や医療費等の分析により、初期段階で生活習慣の見直しができるように取り組んでいきます。</p>						

## 王滝村総合戦略 施策評価一覧表

### (3) 高齢者が安心して過ごせる村

	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取り組み	担当課
1	王滝村データヘルス計画、王滝村健康づくり計画に基づく「健(検)診を受ける・体を動かす・健康に食べる」の3つを柱とする健康増進施策の実施	データヘルス計画の策定。生活習慣病・がんの早期発見、早期治療のため、検診(健診)機会の拡大を実施。	B	健診機会の確保の継続。保健福祉事務所等関係機関との連携。	福祉健康課
2	医師の安定確保	内科常勤医師の確保、歯科診療業務委託による診療所の運営	B	内科:現状のまま継続。歯科:毎水・木曜日の運営で継続	福祉健康課
3	往診・在宅医療の遂行	往診用診療所車の更新	C	車両(H25.10.30購入)は現状維持。在宅医療・介護の検討は未実施	福祉健康課
4	地域医療機関、保健事業、福祉との連携	後期高齢者検診の委託	C	個別に保健・福祉、村社協と情報の共有化、連携の確認	福祉健康課
5	医療・介護・予防・住まい・生活支援が包括的に確保される体制(地域包括ケアシステム)の構築	介護予防・日常生活支援総合事業 一元的な体制構築に向けた情報収集・課題整理など	B	「介護予防・日常生活支援総合事業」の充実を図ります。 生活支援ネットワーク会議等の協力を得ながら、情報収集や課題の整理を行い、多様な担い手による多様なサービスを創出できるように取り組めます。	福祉健康課
6	地域包括支援センターの充実	地域支援活動(運動・認知症等の教室)の実施	C	福祉サービスについての相談窓口を確立し、必要なサービス等へつなげるような組織づくりに取り組めます。	福祉健康課
7	高齢者世帯、一人暮らし高齢者が安心して暮らせるための支援対策	地域住民参加による生活支援の新たな体制づくりの基盤となる「生活支援ネットワーク会議」と「地域支え合い推進会議」を設置し、活動が始まった。	B	「介護予防・日常生活支援総合事業」の充実を図ります。 生活支援ネットワーク会議等の協力を得ながら、情報収集や課題の整理を行い、多様な担い手による多様なサービスを創出できるように取り組めます。	福祉健康課
8	認知症になっても安心して暮らすことができるよう、地域支援対策の推進	介護予防・日常生活支援総合事業 地域支援対策の推進に向けた情報収集・課題整理など	C	「介護予防・日常生活支援総合事業」の充実を図ります。 生活支援ネットワーク会議等の協力を得ながら、情報収集や課題の整理を行い、多様な担い手による多様なサービスを創出できるように取り組めます。	福祉健康課
9	関係機関との連携による支援体制	関係機関との情報共有	B	木曽障がい者総合支援センター とともに や各事業所及び近隣町村など関係機関と情報を共有しながら連携して支援が図られるよう取り組んでいきます。	福祉健康課
10	地域生活への移行、就労支援	関係機関との情報共有	B	木曽障がい者総合支援センター とともに や各事業所及び近隣町村など関係機関と情報を共有しながら連携して支援が図られるよう取り組んでいきます。	福祉健康課
※担当課が2段書きとなっている項目については、上段の課がとりまとめ。					
		(順調) A	0	0.0%	
		(概ね順調) B	6	60.0%	
		(努力を要する) C	4	40.0%	
		(実績なし) D	0	0.0%	
		合計	10	施策	

(4) 生きがいをもって暮らせる村

指 標 名	年度	単位	基準値 (H25年 度)	H27年度	H28年度	H29年 度	H30年度	目標 (H31年度)
何らかの学習活動に従事する割合	目標値	%						43.6
	実績値		28.8	30.9	32.0			
	進捗区分			概ね順調	概ね順調			
	【備考】 当該年度における公民館活動及び地域づくり実践活動に参加した村民の割合 [当該割合を平成 45 年度までに 100%とする計画に対する平成 31 年度の進捗率を目標]	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・公民館活動及び地域づくり実践活動への参加促進</li> <li>・公民館まつり及び村民運動会等、村民総参画による諸行事の推進</li> <li>・地域間交流事業への参加促進</li> </ul>					
	進捗状況の分析及び今後の取組	<p>公民館活動及び地域づくり実践活動に参加した村民の割合は、参加促進の取組により順調に推移しています。</p> <p>より多くの村民に活動への参加を促すため、公民館のみならず関係機関との連携を推進するとともに村民参画による地域づくりに繋がるよう取り組んでいきます。</p>						
指 標 名	年度	単位	基準値 (H25年 度)	H27年度	H28年度	H29年 度	H30年度	目標 (H31年度)
学びの成果を村づくりに生かす活動に従事する割合	目標値	%						30.1
	実績値		13.4	17.2	20.0			
	進捗区分			順調	順調			
	【備考】 当該年度における育成活動、スポーツ活動、公民館活動で指導的役割に従事した村民の割合 [当該割合を平成 45 年度までに 60%とする計画に対する平成 31 年度の進捗率を目標]	主な施策	<ul style="list-style-type: none"> <li>・放課後子ども教室推進事業を通じた子どもの活動及び家庭教育支援の推進</li> <li>・スポーツ活動における指導者の育成</li> <li>・公民館活動及び地域活動における実践活動</li> </ul>					
	進捗状況の分析及び今後の取組	<p>育成活動、スポーツ活動、公民館活動で指導的役割に従事した村民の割合は、指導者等育成の取組により順調に推移しています。</p> <p>引き続き、指導者養成などの人材育成に取り組みながら学びの成果を地域の活性化に生かす活動を進めます。</p>						

## 王滝村総合戦略 施策評価一覧表

### (4) 生きがいをもって暮らせる村

施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取組み	担当課
1 誰もが参加する各種講座やスポーツ、レクリエーション活動の実施	役場関係機関や学校と連携したスポーツ活動 定期的なミーティングによる内容の充実化	B	定期的なミーティングを通じ、より村民のニーズに応じたスポーツ活動の充実化を図る	教育委員会
2 コーディネーター、スポーツ推進員等人材の育成	スポーツ推進員委嘱*学校地域連携コーディネーター育成	B	スポーツ推進員や学校地域連携コーディネーター主体による事業の考案をしていく	教育委員会
3 社会教育施設等の計画的な修繕	公民館施設(本館・分館)の計画的修繕	B	区長、分館長へのヒアリングを定期的に行い修繕計画を作成し実施していく	教育委員会
4 公民館交流事業の推進	地域間交流を通じた学習活動の拡大	B	村外公民館との交流学習活動を一層充実していく	教育委員会
5 公民館だより等広報の発行	公民館だよりの発行	B	公民館だよりの月1回発行による情報提供の継続に加え、より多くの村民の皆さんが参画できるような編集委員会の組織化を図っていく	教育委員会
6 放課後子ども教室推進事業を通じた子どもの活動及び家庭教育支援の充実化	放課後子ども教室事業の継続 子ども育成会と連携した家庭教育支援	B	放課後子ども教室事業については、公民館に来館児童全員を対象に実施。 放課後の時間を活用した体験活動を実施。さらに子ども育成会との連携により、保護者向け学習会を開催していく	教育委員会
7 村民参画による運動会、公民館まつりの運営会議の充実化	村民ふれあい運動会 公民館まつり	B	地域住民の触れあう場として、引き続き村民参画による企画運営にて実施していく	教育委員会
8 新村誌の編纂	新村誌発刊にむけ、資料収集、整理、編集作業実施	C	御嶽山噴火により編集・発刊が遅れた。体制を立て直し平成31年までに全巻刊行するよう努めます。	教育委員会
9 御嶽山岳歴史文化会館の充実	休館中であつたが、6月より管理体制を整え開館	B	平成29年度は、教育委員会が管理運営を行い、郷土食コーナーは営業を行わず、公民館と共催で郷土食講座を月1回程度開催し王滝村の食文化の継承を図る。資料館は、資料整理のため休館とし再開を目指す。	教育委員会
10 活用するための人材育成等体制整備	文化施設管理運営	B	郷土の歴史文化を継承できる人材育成に努めます。	教育委員会
11 郷土食(スunki、ほう葉巻、万年鰯等)の作り方教室等の開催	万年鰯の作り方講座開催 参加者から他の郷土食講座の要望あり	B	平成29年度は、御嶽山岳歴史文化会館と共催で、月1～2回の郷土食講座を開催し、継承を図りたい。	教育委員会
12 森林鉄道の保存、活用	森林鉄道の会等と共催で森林鉄道フェスティバル開催(実行委員会)	B	松葉スポーツ公園内の周回軌道の敷設を目指している。 現存の車両や軌道の老朽化が著しくなっている。今後どのように整備し活用していく検討が必要	教育委員会
13 インターネット、広報等での周知	「村誌編纂室だより」月1回発行	B	引き続き「編纂室だより」を発行	教育委員会

※担当課が2段書きとなっている項目については、上段の課がとりまとめ。

(順調) A	0	0.0%
(概ね順調) B	12	92.3%
(努力を要する) C	1	7.7%
(実績なし) D	0	0.0%
合計	13	施策

5 王滝村総合戦略に含まない施策(長期振興計画にのみ記載されている施策)

※王滝村総合戦略に含まない施策					
	施策	主な取組み	評価	進捗状況の分析及び今後の取り組み	担当課
1	地方債を財源とする事業の必要性の検証	事業の予算計上において、交付税措置率の高い起債(過疎債、緊防債)を財源とした。	B	今後も防災無線設備の更新など、必要とされる事業へ適正な起債の充当を図る。	総務課
2	持続可能な定員管理計画の策定	未策定	D	平成29年度中に定員管理計画を策定予定。	総務課
3	情報化機器の充実	役場業務からインターネットが分離され、セキュリティが飛躍的に向上した。	B	平成29年度以降更新を迎える機器類の整備を推進する。	総務課
4	定員管理と事務の効率化	No.145に同じ	D	定員管理についてはNo.2に同じ	総務課
5	人事評価制度の実施	平成28年度から一部実施	C	平成29年度以降実施項目を拡大していく。	総務課
6	公会計制度の導入(財務諸表の作成)	平成27年度決算値による新基準に基づく財務諸表を作成した。	B	新基準による財務諸表作成の初年度となった。資産、数値などの詳細部分の再精査が必要なため、平成28年度以降の財務諸表で精度を高めていく。	総務課
7	行政評価システムの導入	未導入	D	導入に向けた検討を行う。	総務課
		(順調) A	0	0.0%	
		(概ね順調) B	3	42.9%	
		(努力を要する) C	1	14.3%	
		(実績なし) D	3	42.9%	
		合計	7	施策	